

バトン

## つながりはチョコレート

5年 E・Yさん

「お土産だよ、はじ、チョコレート。」

帰国した家族がスーツケースを開ける瞬間が大好きだ。ハッサンがお土産を渡す場面も一番気に入った。帰郷中でも友達を忘れずにいたハッサンは優しい。その気持ちを大事にしたい。ドイツからのお土産は決まってチョコレート。いい香りで思い出がよみがえる。

小学一年生の真夏にドイツに初めて行った。プールで偶然出会ったサラという小学五年生ほどの女の子と一緒に遊んだ。サラはドイツに住んでいるのに、ドイツ語も英語も話せず、違う言語を話した。私には満面の笑みで、

「このスライダーに行こう、次はあっちっ。」

と、元氣一杯のジェスチャーとOKやYesだけで話した。ずっと明るく優しくかった。遊び疲れてチョコアイスを一緒に食べ、溶けまくるアイ스에大笑いした。別れは本当に辛かった。サラはまた一緒に遊ぼうねと何度も何度も懸命に伝えてきて涙目だった。あれから、ドイツのチョコレートは楽しかったあの時を思い出す、とっっても好きな香りとなった。

ハッサン、圭と白井さんにもタイサンボクの香りから運命的なつながりを感じた。でも、忘れてならないのは、圭と白井さんがハッサンを一切否定せず受け入れた心だ。ハッサンは戦争を経験した家族と日本で暮らしていた。現在日本は、ウクライナ避難民を千六百名ほど受け入れたそうだ。SDGsは「誰一人取り残さない」「持続可能でよりよい世界」を目指している。その目標に向けて日本も頑張っている。私も日本に避難してきた人を一切否定せず受容することくらいはできるだろう。

全く日本語が話せないウクライナの子をニュースで見た時、サラを思い出した。サラはドイツに亡命した避難民だったのかもしれない。受容すること、あの時サラから学んだ。優しい心を持って一緒に時を楽しむことだ。つないでくれたチョコレート、ありがとう！